

# 昔の小谷っ子にインタビュー

東広島市立小谷小学校

第4学年 寄能 大輝

昔の小谷、子にインタビュー

東広島市立小谷小学校 四年 寄能 大輝

みなさんは、この小谷地域が今よりもっと  
と良い地域になるには、どんなことが大切だ  
と思いますか。ぼくは、あいさつをたくさん  
することが大切だと思います。

ぼくは家族にインタビューをしてきました。  
小谷地域は田んぼや山がたくさんあります。  
だから、いなかに住んでいるね。と言われ  
ることもあります。兄や姉、母に聞いてみる

と、昔はと、とそうだ。たそうです。でも、  
近所の人や地域の人たちとのつながりがたく  
さんある、とても良い地域だ。たことも分か  
りました。聞ちが、たことをしてしま、た時  
には、家族ではなくても、近所の人からしか  
られて、ぎぎくに困、た時には助けてもら、  
たり申、てもら、たりしたそうです。

そのころの子どもは、地域の人にどんなこ  
とをしていたのか聞いてみました。すると母  
は、あいさつよとと教えてくれました。

おはようございます。ただいま帰りました。  
こんにはは。きょうならを欠かさずし  
ていたそうです。おもしろい話を聞きました。  
電車が白市駅にとう着して、人が電車からお  
りると当たり前前にみんなあいさつをします。  
ただいま帰りました。ただいま帰しまし  
た。ただいま帰りました。ただいま帰リ  
ました。：：とにかくみんながあいさつする  
ので、駅の近くに住んでいる人はまるでロボ  
ットみたいにあいさつを返さなくてはいけな  
くて大変そうだったと笑って教えてくれまし  
た。

そのころの小谷小学校はあいさつがし、か  
りできて、れいぎ正しいすばらしい学校だと  
有名だ。たそうです。ある時、れいぎやう車  
が通ったときに手を合わせた小谷、子がいて、  
その家族の方がとても喜んでくださり、図書  
室に本を寄付してくださったこともあったそ  
うです。それぐぐれいぎ正しか、たので、  
小谷、子と先生たちとの仲も良かったし、先

生と家族との仲もすごく良が、たそうです。  
今のぼくは進んであいさつができていない  
と思いましたが。このインタビューをしてみて  
あいさつの大切さに気がきました。子どもが  
あいさつをれいぎ正しくできると、家庭も楽  
しくなるし、学校も楽しくなるし、地域も楽  
しくな。て、それが今よりも、と良い小谷  
地域につながが、ていくのだと思います。けん  
かがいじめだ、てなくなると思っています。

あいさつをされるといい気持ちになります。  
自分が気持ちがいいと思うことを、相手の立  
場に立って進んでできる大人になりたいと考  
えています。みなさんも、自分が人にしても  
ら、て気持ちがいいと思うことを、おたがい  
にがんばってほしいと思います。き、と、家  
族も学校も、地域もつながったも、と明るく  
つても、と楽しい小谷地域になると思っています。

## 指導者の言葉

国語科「わたしの考えたこと」において、学級の友だちに自分の考えを伝えるため、文章の組み立てを考えて意見文を書く学習をしました。本校では、第4学年が心身の大きく成長し始める時期であることを受け、年間を通して家庭との連携を大切にしたい取組を行っています。総合的な学習の時間「10年間の成長～すくすくプロジェクト～」を核として、保護者をはじめとする家族と児童との対話が深まるように学習を計画しています。本单元においても、総合的な学習の時間において家庭でのインタビューを通して情報を収集するようにしました。書く際には、短冊に蓄えた情報から、自分の考えを効果的に伝えられるものを選択し、書く順序を検討しました。

児童は、インタビュー活動に熱心に取り組み、母親や兄、姉から多くの情報を集めました。その際、現在と過去を比較し、過去の様子にも視野が広がるように指導しました。その結果、現在では考えられないようなエピソードを引き出すことができました。文章構成を考えたり、推敲したりする際には相手意識をもたせ、友だちの存在を意識させ、より効果的に伝わる順序や言い回しになるように指導しました。

インタビューを通して児童が、あいさつのもつ力や地域の人とのつながりの大切さへの認識を次第に深めていったことが伝わってきます。「あいさつの活性化がより良い地域づくりにつながる」という児童の意見に、熱心な取材を通して集めた情報が説得力を与えています。